

「前例を超え、創る」を本にする 乃木坂スクール

認知症当事者の主権回復に挑んだ3人の看護師 ～それぞれのライフヒストリー～

2021年7月8日

平岩千代子

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科医療福祉ジャーナリズム分野修士課程修了生
シニアの暮らし♡住まいコーディネーター、社会福祉士

身体拘束同意書への署名ができない・・・

- 2011年6月。父、83歳、後縦靭帯骨化症、要介護4。
早朝、訪問介護のホームヘルパーさんが、異常に気づく。
→ 訪問看護ステーションに相談
→ 救急搬送、ステント治療、入院
「身体拘束同意書」への署名を求められる
- 「万一事故が起きた場合も、病院の責任は問わない」
直筆の覚書の提出を申し出たが・・・
→ 前例がないと断られる
→ 同意書へ署名できないなら、家族が泊まってほしい
- 「縛られない暮らし」を患者や家族は望めないの？

高齢者ホームで起きていること

- 介護保険関連施設、身体拘束禁止規定
 - 原則、身体拘束禁止
- 手に負えないと言われても……「出されると困る」と家族
 - 身体拘束、虐待が判明しても、退去者なし
 - 精神科病院等への搬送。その後の行方知らず
- 一般病院に入院したときには……
 - 縛られないように、できるだけ早く連れ帰る

最期まで、尊厳ある暮らしをしたい！

= 身も心も縛られない暮らし



どうしたら実現できる？ できることは？

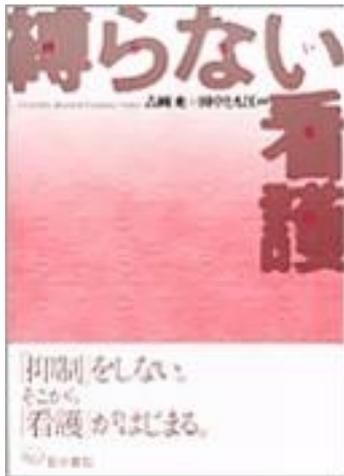


新しい道を切り拓いた取り組みに学びたい！

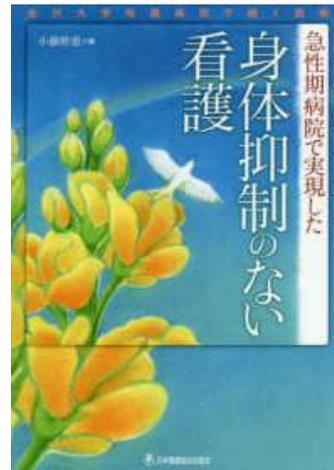
認知症当事者の主権回復に挑んだ3人の看護師

～ライフヒストリーから新しい道を切り開いた要因を考える～

田中とも江さん



小藤幹恵さん



永田久美子さん



ご本人、それぞれの関係者(4-6人)にインタビュー
ライフヒストリーを多角的側面から描き、ご本人の魅力を探る

田中とも江さん

～縛らない看護、尊厳ある暮らし回復への挑戦～



- 見習い看護婦からスタート
- 精神病院、老人病院が乱立し、倫理なき乱脈経営がはびこる1980年代。老人病院で、**身体拘束ゼロ**を実現
- 介護保険制度発足時に、「**介護保険関連施設における身体拘束禁止規定**」制定のきっかけに
- 現在、高齢者ホーム施設長。要介護5、認知症の重い人も、**最期まで口からの食事、トイレでの排泄**を実践

小藤幹恵さん

～「患者さんにとっての最善」を最上位価値にする挑戦～



- 金沢大学附属病院。
歴代最年少で看護部長、副病院長
- 千葉大学大学院で看護管理を学ぶ
⇒ 一番大事な価値観は、**明るいこと**
- 自らは、**身体拘束をした経験がない**
- **臨床倫理を病院全体の共通言語に**
⇒ 医師も看護師は役割が違うだけ
- **命と尊厳は分けられない！**
⇒ トカゲの尻尾切りは絶対しない
⇒ しかけられた落とし穴

永田久美子さん

～「認知症本人の意思」を最重視する社会づくりへの挑戦～



- 新潟県三条市での幼いころの原体験
 - 門前市の幸せそうなお年寄り
 - 認知症になった祖父と介護する母の関係
- 千葉大学、大学院時代の経験
 - 認知症当事者の声
 - 医療・ケア提供体制への疑問
- 認知症の人の意思や声を生かす二刀遣い
 - パーソナル・アドボカシー: 本人発信支援
 - システム・アドボカシー: 当事者の声を施策に反映

3人の看護師の挑戦を読み解くと・・・

それぞれがおかれた環境の中で
“おかしい” と思ったことを
“本来あるべき姿” “当たり前” の姿” に戻す挑戦

=人間らしく生きることを「妨げていること」を取り除く
身体拘束/管理・支配された生活環境/本人の想いの無視

「最初に人間ありき」へのパラダイム転換の
提唱と実践

パラダイム転換のカギ:3人の看護師の卓越した特性

- 田中とも江さん

- 徹底した現場第一主義

= 拘束の芽を摘むために、8年間病院に泊まり込む

- 小藤幹恵さん

- たぐいまれなリーダーシップ

= うれしいことがあった時に、真っ先に報告に行く人

- 永田久美子さん

- 認知症が重くても、意思を発信できるとの揺るぎない信念

= 聞く耳をもてば、本人が発する表情やことばがわかる

パラダイム転換に共通する5つのカギ

- 1 大義ある明確なゴール = 目指すは山頂
「最初に人間ありき」の環境を整える
- 2 市民としての当事者性から生まれる、
基本的人権に対する倫理観
- 3 看護師としての誇り、「療養上の世話」の価値
- 4 「医療安全のための身体拘束」は詭弁、という信念
- 5 人を育てる



最期まで人間らしく生きることを望むなら、

人間らしく生きることを「妨げていること」をとりのぞく

市民、専門職、行政職・・・すべての人が、対等・平等の立場で

“おかしい”と思うことを“本来あるべき姿”に戻す

「最初に人間あいき」への

パラダイム転換に挑む勇気を！

修士課題作品を、本にする！



日本看護協会出版会
Nursing Today ブックレット

名編集者、村上陽一郎さんの手で

- ① テーマを絞る：認知症と抑制
- ② 看護師本人の語りを中心に

10月上梓予定

当事者の声を入れる: 丹野智文さん追加インタビュー



- 認知症の当事者300～400人との面談経験から
→ 認知症と診断されたとたん「さまざまな拘束」
- 見える拘束
 - ・本人の同意なき精神科病院への強制入院
 - ・閉鎖病棟への隔離
 - ・身体拘束
 - ・薬による鎮静
- 見えない拘束
 - ・本人が考え、自らの意思を語る機会がない
 - ・家族の意思が優先される
 - ・一人で外出させてもらえない

- 認知症のある当事者を苦しめる拘束の多い暮らし
 - ⇒ 本人は、追い詰められている！
 - ⇒ できることを奪わないで！
- 認知症と診断された直後の適切な情報提供を！
 - ⇒ 困りごとではなく、「本人が何をやりたいか」を聞いて！
- 家族を解放する
 - 家族以外の信頼できるパートナーづくり
- 認知症になったからこそできる活動、
認知症当事者でなければできない活動を展開
- 丹野智文さんの著書、9月発売！
『認知症の私から見える社会』（講談社新書）